地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 番外編

井谷の横井戸と紙漉き

文：薄　定雄

皆さんは「横井戸」というものをご存知でしょうか？

普通「井戸」というと「井戸のつるべ落とし」というように、地面を垂直に掘って地下水を汲み上げる「竪井戸」を思い浮かべられると思います。平地で水を得ようとすれば、下に向かって垂直に井戸を掘るしかありません。

それに対して「横井戸」は山の斜面や崖を水平方向に掘って水を得ます。山裾に住む人は、水を汲み上げて使用しなければなければならない竪井戸よりも、横に井戸を掘り地表に水を引き出す横井戸のほうが便利だったのです。水が常に流れ出てきて汲み上げる労力も要らず、必要なところに樋などで持っていける「横井戸」は利便性が高かったのです。

この横井戸の好条件を備えていたのが井谷集落です。井谷集落は粘土質の通称「峠」と呼ばれている七曲山（290.7 m）の山腹にあります。この山は、私が峠越えをして中学３年まで通った通学路でもありますが、当時はブナ林もあり、山の南面集落上部には「水上林」という字名もあるように水を得やすい条件が備わっていたのです。

集落のほとんどの家が横井戸を持っており、生活用水はそこから得ていました。また、井谷は紙漉きが盛んな集落でもあり、私が子供のころ、旧戸 13 戸のうち８戸が紙漉きを冬期間の副業としていました。紙漉きの工程では多くの水を使用しますが、その水も横井戸から得ていました。このように井谷の紙漉きは、常に十分な量の水が得られ、作業場までその水を引ける「横井戸」があって成り立っていたのです。

私の家では昭和 36 年 (1961) まで父が紙漉きをしていました。紙漉きの工程では特に２つが子供も大切な労働力でした。その１つが和紙の原料となる「コウゾ」の木を蒸して皮を剝ぐ「コウゾ剝ぎ」で、温かいうちの作業なので、近所同士の「結」でやっていたほか、子供も休みの日は駆り出されました。子供でも「結」返しでは近所の家に手伝いに行きました。もう１つは､剝ぎ取られた皮を「スベ取り｣､｢晒し」などの工程を経たあと釜で煮て柔らかくし、それを平たい石の上で叩いて繊維を細かくする「カミソ（紙素）打ち」です。子供も学校から帰ると必ず手伝っていました。

▲現役の上野保雄氏宅の横井戸。
現在は竪井戸と併用している。

なお、井谷では武藤傳応氏が昭和 48 ～ 49 年 (1973 ～ 74) 頃まで和紙を漉いており、氏が西会津町最後の紙漉き職人となりました。

お詫びと訂正

1月号11ﾍﾟのふくしま駅伝の記事で「15区 目黒星那さん」の写真を掲載しましたが正しくは「9区 目黒怜那さん」の誤りでした。お詫びして訂正します。

今月の表紙

今月の表紙は、1月13日に行われた野沢初市から。お正月ならではの仮装をした、西会津大山さゆり太鼓の皆さんをパシャリ。力強い太鼓演奏で初市のオープニングを盛り上げました。

編集後記

まだまだ寒い日が続く2月。2月は和風月名でいうと「如月」と呼ばれるそうです。寒さがきびしい時期に更に衣を重ね着することから「きさらぎ」と呼ばれることになったとか。（諸説あり）

寒さが本当に苦手な私は、まだまだ遠い春を心待ちにしています。（暖かくなったらフキノトウを探しに行きたいな）（三留）

にしあいづ
広報にしあいづ №808　令和８年２月号
発行／福島県西会津町　編集／総務課　TEL 0241-45-2211（代表）
ホームページ　https://www.town.nishiaizu.fukushima.jp/

PRINTED WITH SOY INK
この広報紙は、環境に優しい大豆油インキを使用しています。